

平成28年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

鮎鱈（あんこう）のブランド化によるむらづくり

○集団等の名称 ゆかい村風間浦鮎鱈ブランド戦略会議（代表 駒嶺 剛一）

○所在地 青森県下北郡風間浦村

○受賞理由

・地域の沿革と概要

風間浦村は、本州最北端青森県下北半島の北西部、津軽海峡に面した風光明媚な海沿いの村で、東西約20km、南北約8km、総面積の約96%が山林、原野となっている。キアンコウやイカ類などの沿岸漁業のほか、日本三大美林の一つである「青森ヒバ」の木材加工等を中心とした林業、下風呂温泉郷を中心とした観光業が村の基幹産業となっている。

・むらづくり組織の概要

- ① 漁業者の高齢化や後継者不足、旅行形態の変化に伴う観光客の減少、漁業と観光業の衰退を防ぐことなどが課題となっていたことから、平成22年の新幹線駅開業を見据え、漁業と観光業が連携した交流人口の増加に向けた検討が始まった。
- ② 平成21年には、村内3漁協の組合員が中心となり、漁協組合員や観光関係者、村、県などを構成員とする「風間浦村きあんこう資源管理協議会」が発足した。平成22年には、前述の協議会を母体とした「ゆかい村鮎鱈ブランド化戦略会議」を設立した。さらに「風間浦鮎鱈」として地域団体商標に登録されたことを期に、平成27年に「ゆかい村風間浦鮎鱈ブランド戦略会議」（以下「ブランド戦略会議」）へ名称変更した。
- ③ ブランド戦略会議は、「ブランド戦略部会」「鮎鱈PR部会」の2部会で構成し、下北地域の賑わい創出、地域資源の付加価値向上等を目指して取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

（1）漁業生産面

- ① キアンコウの漁獲量や漁期にルールを設け、資源管理の取組を通じたブランド化の確立により、漁業所得の向上につなげている。
- ② 漁業者自ら率先して資源の生態把握に務め、資源を適切に管理する漁業を行うことにより、次世代に引き継ぐための持続的な漁業を展開している。
- ③ 村内3漁協の女性による海藻の産地直売所「ふのりちゃん」の運営を通じて、地産地消の取組を推進している。

（2）生活・環境整備面

- ① 生きたまま水揚げしているキアンコウを起爆剤に、漁業と観光を融合させた「風間浦鮎鱈まつり」は、販路拡大や冬場の観光振興に結びつき、地域一体の取り組みに発展している。
- ② ブランド戦略会議が中心となって、漁協、温泉女将の会、商工会等が連携し、伝統的な漁法及び食文化の継承に取り組んでいる。
- ③ 地域住民が参画した植樹、清掃活動の実施や小学生に対する水産教室の実施による水産業等に関する理解の増進を図っている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、地域に伝わる伝統を現代に生かすことで、持続的な漁業として取り組み、後継者の育成や雇用の拡大につなごうとしている事例であり、今後の発展が大きく期待できる。

漁業と観光を一体的に結び地域ぐるみで漁村の活性化を図っており、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。